

半自然草原の生物多様性を取り戻す



活動の場所

高瀬川とその流域の半自然草原
(大町市・池田町・松川村・安曇野市)



活動目的

高瀬川流域の自然と親しみ、希少動植物からなる郷土生態系を回復し、後世に継承すること。

活動内容

<地域の自然> 半自然草原を主とする生態系

北アルプス槍ヶ岳を源流とする高瀬川は、暴れ川である。薪や飼葉の採集が行われてきた河川敷は、半自然草原となっている。そこには、いまでも、スズサイコ・カワラナデシコ・カワラサイコ・カワラニガナ・オガルカヤ・イヌハギ・ツメレンゲ・ワレモコウ・カナビキソウ・クロツバラ・カサゴケモドキ・コゴメヤナギなどの植物、クロツバメシジミ・シロヘリツチカメムシ・ノコギリクワガタなどの昆虫が見られる。礫河原に目を転じると、春には、コチドリ・イカルチドリ、夏には、カワラバッタが見られる。低水路には、カジカ大卵型・オイカワ・コオイムシ、湧水には、ドジョウ・ツチガエルなどが見られる。



ツメレンゲ・クロツバメシジミ



形態的に多様なカワラナデシコ



スズサイコ



カワラバッタ



ハリエンジュ・ポブラ伐採



シナダレスズメガヤ抜根

<保全> 侵略的外来生物の防除

しかしながら、治水の高度化によりハリエンジュをはじめとする侵略的外来種が繁茂している。これら外来種は、オオムラサキなどの郷土種を絶滅させてきた。そこで本会は、郷土生態系を回復し生物多様性の増強を図ることを目的として、河川管理者と連携しつつ、希少種保護と侵略的外来種防除にいそしんでいる。なお、作業に際しては、観察者をして半原生的自然と養殖的自然とを混同させぬよう、保護区・移植区を弁別している。

<環境学習> 自然への愛着

誰とでも話し、ともに観察し、遊び、焚き火を囲む。やがて誰もが、好きな生き物と巡り合う。



PRしたいポイント

1. 重点的に活動を行ってきた小区では、希少動植物数十種（MOE準絶滅危惧種以上は13種）が迎えてくれる。
2. 生き物の観察を楽しむだけでなく、侵略的外来種の防除をもゲーム・スポーツ感覚で楽しんでいる。
3. 本会は、学会・地方公共団体・営利法人・こども食堂・個人等々、保全の目的のもと誰とでも連帯する。

活動効果、今後の展開 等

<成果>ハリエンジュ・シナダレスズメガヤの駆除が完了した小区では、安曇平の原風景が回復した。

<目標>侵略的外来生物の防除を完了させ、希少な草花や昆虫をメタ個体群化する。

高瀬川を愛する会

<https://www.facebook.com/ilovetakasegawa>